

令和元年度 教育改善報告書

— 効果的かつ効率的な教育活動を目指した点検評価 —

令和2年5月

長野工業高等専門学校
教育改善委員会

令和元年度教育改善報告書 目次

1. 令和元年度教育改善委員会の活動内容	・ ・ ・ ・	1
1-1 目的		
1-2 点検業務の流れ		
1-3 課題の分類, 改善提案		
1-4 今年度の主な活動内容		
2. 令和元年度 各種委員会の活動状況の点検結果	・ ・ ・ ・	5
2-1 教務委員会		
2-2 学生支援委員会		
2-3 寮務委員会		
2-4 専攻科運営委員会		
2-5 研究支援委員会		
2-6 広報企画室		
2-7 国際交流センター		
2-8 教育改善委員会		
3. 令和元年度における各種点検報告	・ ・ ・ ・	20
3-1 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果		
3-2 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検		
3-3 学生との意見交換会に関する点検		
3-4 平成30年度参与会で出された改善点の整理		
3-5 実施済研修会の効果の点検およびその改善		
4. 令和元年度 FD 研修会実施報告	・ ・ ・ ・	25
4-1 令和元年 第1回FD研修会		
4-2 令和元年 第2回FD研修会		
4-3 令和元年 第3回FD研修会		
4-4 令和元年 第4回FD研修会		
5. 令和2年度の活動に向けた各種委員会等への提言	・ ・ ・ ・	31
6. 機関別認証評価の訪問調査結果を受けての各委員会への提言	・ ・ ・ ・	31

付録

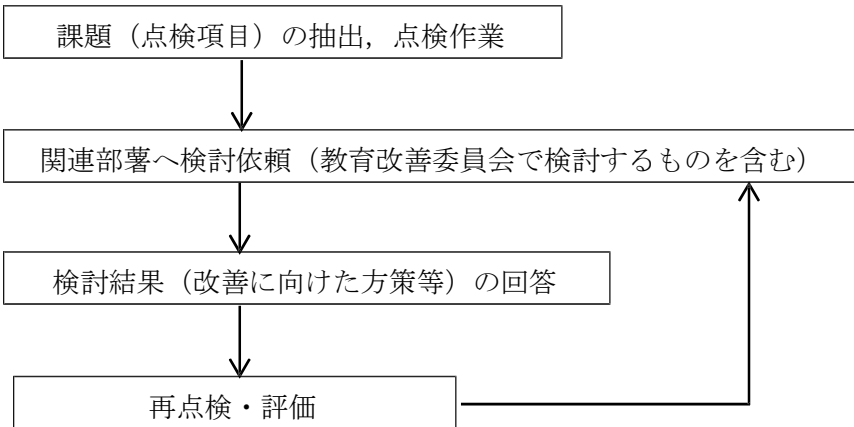
- 付録1 令和元年度 卒業生および企業等に対するアンケート調査実施結果
- 付録2 令和元年度学生会役員との意見交換会 議事録
- 付録3 第15回長野工業高等専門学校参与会概要
- 付録4 令和元年度 第2回FD研修会 講演資料
- 付録5 令和元年度 第3回FD研修会 講演資料
- 付録6 令和元年度 教育改善委員会 議事概要

1. 令和元年度 教育改善委員会の活動内容

1-1. 目的

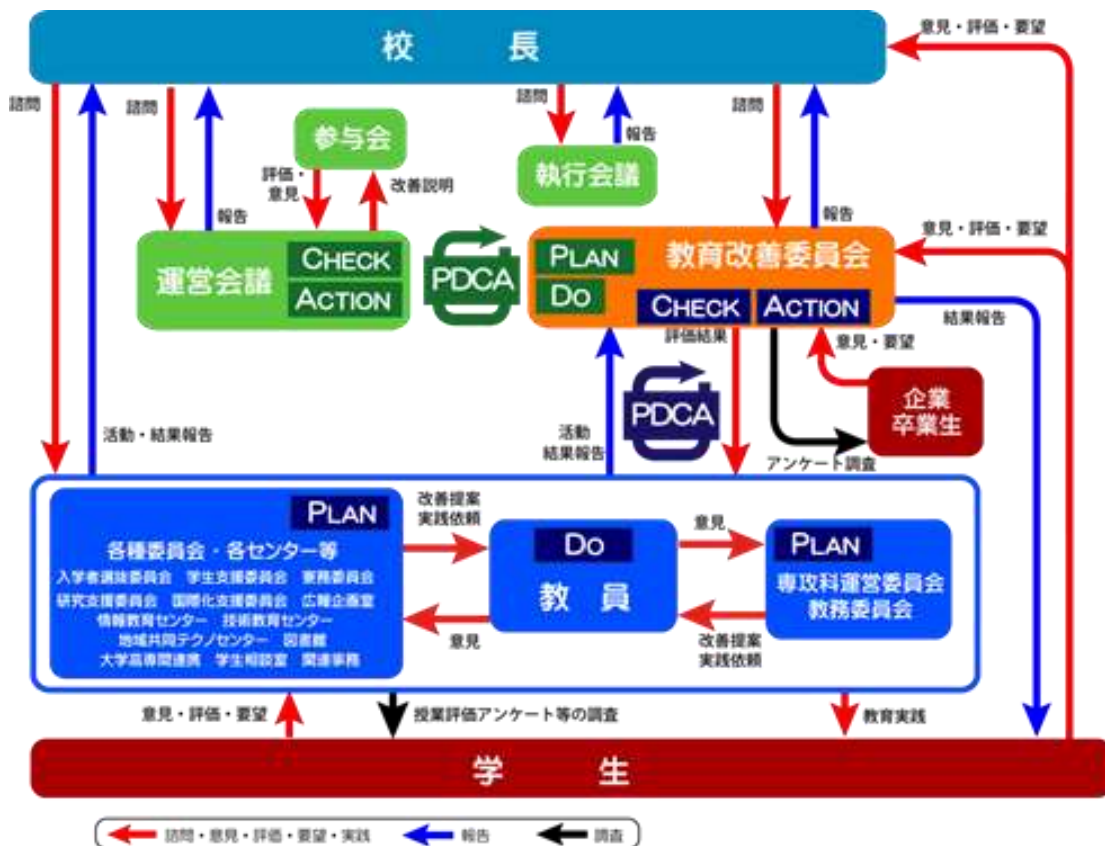
本校の教育システムを点検評価し、教育技術を向上させるための取り組み（FD）を推進し、本校の教育改善に努める。特にPDCAサイクルのA（Action）を重視し、教育改善として次のサイクルにつながる活動を推進する。

1-2. 点検業務の流れ（Check）



3. 課題の分類, 改善提案 (Action)→ (Next Plan)

- (1) 各種委員会等の活動状況を点検した後に整理された課題
- (2) FD研修会での結果を分析した後に整理された課題
- (3) 重点項目として教育改善委員会で取り上げた課題
- (4) アンケート調査の分析から得られた課題
- (5) 外部評価で指摘された課題
- (6) 教員, 学生, 保護者等から指摘された課題



1-4. 今年度の主な活動内容

- (1) 令和元年度各種委員会の活動状況の点検
【各種委員会は、教務、専攻科運営、研究支援、学生支援、寮務、広報企画、国際交流センター、教育改善の8委員会とする。】
 - ・平成30年度教育改善委員会より提言した課題の検討・改善状況を点検する。
(平成30年度教育改善報告書を参照)
 - ・令和元年度当初に提示された計画に基づいて行った活動内容を点検する。
 - ・令和2年度の活動に向けた課題を整理し提言する。
- (2) 授業改善システムの実施と評価・点検
 - ・授業改善用チェック・提言シートに基づいて実施する。
 - ・当システムの評価・点検を行う。
- (3) 学習・教育目標の達成度（本科5年）に関する調査の点検および自己評価シート（学年別 学習・教育目標の達成度）に関する改善方法の点検
 - ・平成26年度本科1年～5年生は新システムを導入した。その調査方法および調査報告の点検および評価を行い、平成30年度から新たな自己評価シートを作成した。
- (4) 学生との意見交換会に関する点検
 - ・平成30年度開催の意見交換会について点検および評価を行う。
- (5) 平成29年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理
 - ・平成29年度の参与会（2月開催）の点検と提言
- (6) 卒業生・企業向けアンケート調査結果からの改善点を検討し各部署へ改善点を依頼
教育改善に向けた作業計画（申し合わせ事項）【（ ）は前回の年度】
 - 1年目（令和元(平成26)年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施
 - 2年目（令和2(27)年度）：改善内容の検討と各部署への依頼
 - 3年目（令和3(28)年度）：改善内容の実施
 - 4年目（令和4(29)年度）：
 - 5年目（令和5(30)年度）：改善内容を含めた教育システムの評価
 - 6年目（令和6(令和元)年度）：卒業生・企業向けアンケート調査の実施
- (7) 実施済FD研修会の効果の点検およびその改善
 - ・令和元年度は、点検方法を検討する。
- (8) FD研修会の企画・開催および報告書の作成
 - 第1回FD研修会（8月2日）
 - 第1回FD研修会（9月13日）
 - 第1回FD研修会（9月19日）
 - 第1回FD研修会（1月22日）
- (9) エビデンス保管の電子化の改善
- (10) エビデンスの有効活用の検討
- (11) エビデンス収集・保管の改善について
 - ・表紙等書式の改善【(令和元年度版)をグループウェアにアップする】
 - ・教育改善委員会ワーキンググループ（チーフ：柄澤委員）が担当する。
- (12) 試験問題レベルの保証確認 → 結果は学生課で保管
 - ・年2回実施（前期10月、後期3月）
 - ・各学科の保証確認作業は各学科の教育改善委員会委員が行う。

- (13) 各部署への検討依頼，回答の集約
- (14) メール目安箱への対応
- (15) 令和元年度版教育改善報告書の編集・発行

教育改善委員会開催

- 第1回 5/30 : 方針，業務分担，エビデンス収集
エビデンス保管の電子化の改善
- 第2回 7/23 : 参加会からの改善点，実施済研修会の点検，
授業改善システム（令和2年）の実施の依頼
- 第3回 9/26 : 授業改善システムの実施報告
学習・教育目標の達成度に関する調査の点検と改善
卒業生アンケート調査結果からの教育システムの評価
エビデンスの有効活用の検討
- 第4回 11/21 : 試験問題レベル保証の確認（前期分），各種点検の報告
- 第5回 1/30 : 教育改善報告書作成依頼，各種点検の報告
- 第6回 3/26 : 教育改善報告書のまとめ
（委員会の活動状況点検，学生との意見交換会を含む），
試験問題レベル保証の確認（後期分）

その他 電子メール：FD研修会の実施について
：試験問題レベルの保証（作業依頼）

令和元年度教育改善委員会業務分担

	担当項	押田	鈴木	長坂	柄澤	中島	奥山	鬼頭	事務	備考
1	平成30年度各種委員会の活動状況の点検	◎改善	国際交流 研究支援	寮	広報	専攻科	教務	学生支援	○	3月上旬
2	授業改善システムの実施と評価・点検 (作業含む)	◎ (情報)		○ (機械)	○ (電気)	○ (制御)	○ (環境)	○ (一般)		7月依頼 9月上旬
3	学習・教育目標の達成度に関する調査の点検	○					◎			9月上旬
4	学生との意見交換会の点検	○						◎		3月上旬
5	平成30年度参与会が出された改善点の整理	○		◎						7月下旬
6	卒業生・企業向けアンケート調査結果から 改善内容を含めた教育システムの評価	○	◎							9月上旬
7	実施済研修会の効果の点検およびその改善	○				◎				7月下旬
8	FD研修会の企画・実施	○		第2回 企画・報告		第1回 企画・報告	第1回 企画・報告	第2回 企画・報告	○	
9	エビデンス保管の電子化の改善	○			◎					7月下旬
10	エビデンスの有効活用の検討	○			◎					9月上旬
11	エビデンス収集・保管の改善 (実務作業含む)	○			◎					WGで担当
12	試験問題レベルの保証確認	○ (情報)		○ (機械)	○ (電気)	○ (情報)	○ (環境)	○ (一般)	◎	前期11月 後期3月
13	各部署への検討依頼, 回答の集約	◎							○	随時
14	メール目安箱への対応	◎	○	○	○	○	○	○	○	随時
15	教育改善報告書の編集・発行(PDF)	◎							○	3月下旬

2. 平成 30 年度 各種委員会の活動状況の点検結果

2-1 教務委員会

(1) 平成 30 年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況

提言された課題	評定	根拠資料等
①学習教育目標達成度自己評価アンケート	○	第 8 回 教務委員会 議事概要 第 9 回 教務委員会 議事概要 第 12 回 教務委員会 議事概要 第 13 回 教務委員会 議事概要 第 14 回 教務委員会 議事概要
②本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築	△	第 7 回 教務委員会 議事概要 第 10 回 教務委員会 議事概要 第 11 回 教務委員会 議事概要
③学生の主体的な学習への取り組みと意欲向上	◎	第 2 回 教務委員会 議事概要 第 3 回 教務委員会 議事概要 第 4 回 教務委員会 議事概要 第 5 回 教務委員会 議事概要 第 6 回 教務委員会 議事概要 第 8 回 教務委員会 議事概要 第 9 回 教務委員会 議事概要 第 10 回 教務委員会 議事概要 第 12 回 教務委員会 議事概要 第 13 回 教務委員会 議事概要
④教員間の連携と協働教育の推進	○	第 3 回 教務委員会 議事概要 第 4 回 教務委員会 議事概要 第 6 回 教務委員会 議事概要 第 7 回 教務委員会 議事概要 第 8 回 教務委員会 議事概要 第 9 回 教務委員会 議事概要 第 10 回 教務委員会 議事概要
⑤在校生への技術士資格の啓蒙活動	×	特になし
⑥学生との意見交換 低学年の全科目必修制度の変更 レポート作成の電子化	△	第 6 回 教務委員会 議事概要

(2) 令和元年度教務委員会の活動方針に基づいた改善状況

活動方針	評定	根拠資料等
①学生の主体的な学習への取り組みと意欲の向上 ・学生の主体的な学習への取り組みへの施策検討と実施 ・対話型事業やアクティブ・ラーニングの導入等 ・授業評価アンケートの活用 ・自己評価シートの活用 ・合格者アンケートの活用	○	第 1 回 教務委員会 議事概要 第 2 回 教務委員会 議事概要 第 3 回 教務委員会 議事概要 第 4 回 教務委員会 議事概要 第 8 回 教務委員会 議事概要 第 9 回 教務委員会 議事概要 第 12 回 教務委員会 議事概要 第 13 回 教務委員会 議事概要 第 14 回 教務委員会 議事概要
②キャリア教育の推進 ・低学年学生への学習法の指導と継続的フォロー	○	第 1 回 教務委員会 議事概要 第 2 回 教務委員会 議事概要 第 3 回 教務委員会 議事概要

<ul style="list-style-type: none"> ・中高学年学生の主体的学習の推進 ・キャリア教育の実施 		第4回 教務委員会 議事概要 第5回 教務委員会 議事概要 第7回 教務委員会 議事概要 第9回 教務委員会 議事概要
③教員間の連携と協働教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・学科・科目間の連携を強化 ・学科再編にともなう準備 ・Blackboardの利用促進 ・モデルコアカリキュラムへの対応 	○	第3回 教務委員会 議事概要 第4回 教務委員会 議事概要 第6回 教務委員会 議事概要 第7回 教務委員会 議事概要 第8回 教務委員会 議事概要 第9回 教務委員会 議事概要 第10回 教務委員会 議事概要
④専攻科との連携 <ul style="list-style-type: none"> ・本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築 	△	第7回 教務委員会 議事概要 第10回 教務委員会 議事概要 第11回 教務委員会 議事概要

(3) 平成31年度の活動に向けた提言

- ・学生の主体的な学習への取組みと意欲の向上が課題に挙がっているが、学習時間の増進、対話型授業やアクティブ・ラーニングの導入等に関する検討は不十分である。夏季自主研修の課題提供として専門科目の重要性を具体的に認識できる低学年学生向けの問題解決型学習の導入例、企業見学会やインターンシップがあげられているが限定的である。強化されたい。
- ・本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築について、方針、内容が不明確である。とくに教務委員会では専攻科との連携が議題で取り上げられており、必要があるとの認識が確認できるが、専攻科運営委員会で本科との連携が課題となっておらず、連携を強化した教育体制の構築には双方の協力が必要であると考えられるため、よりいっそうの努力を期待したい。
- ・科目間連携が低学年の成績不振学生への対応に限った話になっている。教員間の連携と協働教育に踏み込んだ話になっていないため、高度化連携も踏まえて教員のグループ化について検討を進めるべきである。またBlackboardの利用促進やMCCへの対応は活動方針にあがっていたが検討が行われていない。これに関する議論を強化していただきたい。

2-2 学生支援委員会

(1) 平成30年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

今後の課題	評価	根拠資料 等
1. 学生支援・指導について学生相談室との連携を深める。	×	学生相談室との連携について、議事概要からは見当たらなかった。
2. 課外活動に関するHPの掲載や学園便り等の広報活動について、情報セキュリティ委員会及び広報委員会との連携を図り、掲載基準の作成及びその徹底を図る。	○	第2回で、大会結果のホームページへの掲載については、個人情報保護の観点から広報企画室で検討中と報告があり、第3回で、学生の活躍の掲載一時停止することを保護者に通知する。第9回で、掲載する大会を学生支援委員会において精査したうえで、広報企画室が作成した「情報発信チェックリスト」に従い掲載することになった。第10回で、このチェックリストに従い、積極的な情報発信を行う。
3. 教務委員会と連携して、進路支援室等の充実を図り、キャリア教育を充実させる。	×	教務委員会との連携について、議事概要からは見当たらなかった。

(2) 令和元年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料 等
<p>1.委員会全般，福利厚生・学資支援（授業料免除，奨学金，健康・安全，他） 授業料免除の選考，奨学金の推薦，交通安全講習会などの実施，学生の福祉について等</p>	○	<p>第1回（令和元年度学生支援委員会活動方針・課題等と役割分担，指導方針及び学生生活の支援・指導，奨学金推薦，入学料，授業料免除選考基準について） 第2回（奨学生の選考（太田・オリオン財団奨学生，北野財団奨学生等），入学料免除，学生の懲戒に関する規則，心のケア講演会（3年生向け），交通安全及びSNS講習会（4年生向け）） 第3回（北信奨学財団奨学生推薦，卓越した学生に対する授業料免除について） 第4回（授業料免除選考（持回り審議），夏季休業中の注意事項，日本学生支援機構給付型奨学金） 第5回（令和2年度学事暦） 第6回（長野高専基金による令和元年度入学支援奨学金給付者，卓越した学生に対する授業料免除，学生食堂，売店及び自動販売機契約の更新） 第7回（2020年度進路指導にかかる指導要項） 第8回（令和元年度後期授業料免除，後援会と学生会及び寮生会役員との懇談会について） 第9回（課外活動団体の継続許可基準，学生便覧記載事項，学校日直制，自転車保険加入，給付型奨学金（在学予約採用）の成績基準，学研災の加入，進路説明会の開催） 第10回（部同好会の継続許可基準，課外活動日直，機構学生表彰の推薦，学生表彰） 第11回（日本学生支援機構令和2年度給付奨学金在学予約採用候補者の推薦，令和元年度学生支援委員会のまとめ，高専における課外活動の在り方に関する総合的な方針）</p>
<p>2.進路活動支援（進路説明会，進路講演会，他）進路講演会，進学講演会，講習会の開催，進路指導方針の検討等</p>	○	<p>第4回（学校処分に関係する就職の推薦方針） 第6回（進路指導に関する意見交換会） 第7回（5年生による1学年対象進路講演会の開催，4年生進学講演会，進路指導に関する意見交換会） 第10回（，大学等編入学試験における推薦基準）</p>
<p>3.学生会活動支援（学生会，ボランティア，他）学生会への支援，各種委員会活動の活性化等</p>	○	<p>第4回（全国大会壮行会，学生との意見交換会） 第5回（高専体育大会壮行会について） 第8回（リーダーズ研修会，学生との意見交換会） 第9回（学生会選挙結果 翠嶺）</p>
<p>4.課外活動支援（部長会，各種コンテスト，他）部・同好会の指導体制の確立，長期休業中の課外活動の実施方法の検討等</p>	○	<p>第1回（部・同好会指導教員について） 第2回（令和元年度部・同好会活動の指導に関するガイドライン，学生の団体結成，高専文化発表会） 第3回（長期休業中の宿泊を伴う課外活動，学生の団体結成，部室点検） 第4回（同好会の結成（e-Sports 同好会）） 第5回（同好会結成，厚生補導設備充実費，夏季自主研修期間中における課外活動等に伴う寮宿泊について） 第6回（同好会の結成）</p>

		第 8 回 (同好会活動の継続許可条件, 課外活動全国規模大会結果一覧) 第 9 回 (学年末休業中の部活動宿泊)
5.工嶺祭等支援 (工嶺祭, 他) 工嶺祭のあり方の検討と指導, 実行委員会活動への支援	○	第 2・3 回 (工嶺祭について) 第 4 回 (工嶺祭駐車場, 企業展について) 第 5 回 (工嶺祭準備状況等) 第 6 回 (工嶺祭実施計画と指導体制について) 第 7 回 (夜間巡視, 企業展) 第 8 回 (実施概要及び実施要項) 第 9 回 (反省)
6.生活指導 (環境美化 清掃, 車両, 飲酒喫煙, 問題行動指導, など) アルバイトの指導, 学校生活向上指導 清掃デーの実施, 交通安全 車両通学規定の遵守, 車両 喫煙防止の巡回指導, SNS に関する指導	○	第 1 回 (新年度における諸手続, 飲酒・喫煙・車両違反・マージャン・ゲーム機等の指導要領, 学校生活の安全と信頼関係の構築, 前期清掃分担当表, 女子更衣室の使用, 交通安全および SNS 講習会について) 第 2 回 (3 年生対象心のケア講演会, 4 年生対象交通安全及び SNS 講習会) 第 3 回 (交通安全指導, 飲酒・喫煙指導) 第 4 回 (学生の指導, 5 学年・3 学年の交通安全講習会) 第 5 回 (学生の指導) 第 6 回 (薬物乱用防止講演会の開催, 生と性の講習会) 第 8 回 (冬季限定車輛通学許可者, 4 学年卒業生による進路講演会)
7.広報活動 (学生会活動, 工嶺祭活動, 課外活動等の広報, HP による緊急時の連絡等)	○	第 9 回 (ホームページの更新 (大会結果等)) 第 10 回 (ホームページの更新について (課外活動関係))

(3) 令和 2 年度の活動に向けた提言

- 1) 課外活動指導に関する業務負担軽減に取り組み, 来年度から課外活動日直 (業務委託) を導入するが, その効果を確認すると共に, 課外活動指導員 (非常勤職員) の活用に関して検討する。
- 2) 学生生活の安心と安全が守られるよう, 教務委員会ははじめ他の委員会とも連携し, 教員および職員が一枚岩となった学生指導・学生支援を行う。

2-3 寮務委員会

(1) 平成 30 年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

今後の課題	評定	根拠資料 等
・補食室や談話室の掃除等, 登校カードの掲示・収納も含めて, 正副階長への指導	△	・正副階長会議を 3 回 (3/30, 5/9, 10/1) 開催。ゴミの分別も含めて, 共用スペースの整理整頓については不十分だった。 (第 15 回資料 1 令和元年度実施状況)
・動画閲覧やゲームなど勉強の妨げになっているため, ネットワーク利用および違反指導	△	・使用量超過違反の大幅減, しかし, ゲーム使用の違反が多い。 (第 15 回資料 1 令和元年度実施状況)

(2) 令和元年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

おもな活動内容	評定	根拠資料 等
寮生会役員, 階長・副階長, 指導寮生との意思疎通の促進と改革の推進		
1. 寮生会役員, 階長・副階長, 指導寮生との意思疎通の深化と改革の推進	△	・第 15 回委員会資料 1 (令和元年度実施状況)

<p>(a) 寮生会役員との協議会を月1回、また正副階長会議、監査会議を年数回の開催し、寮生会の主体的活動を推進させる。</p> <p>(b) リーダーズ研修などを開催する。</p> <p>(c) 風紀委員と連携して、寮生自らが清掃状況を確認・指導する体制を整える。</p> <p>(d) 寮生会役員自らが学習や生活の面において寮生の模範となるよう指導する。</p> <p>(e) 1年生への寮規則遵守指導法を寮生会役員と体制を整え実施する。</p>		<p>(a) 協議会は4/23, 5/17, 6/25, 7/20, 9/30, 11/15, 12/17, 1/17計8回、正副階長会議は3/30, 5/9, 10/1計3回開催した。</p> <p>(b) リーダーズ研修などは実施しなかった。</p> <p>(c) 大掃除について、違反学生を当てるなどし、学生が中心となり実施できた。屋外清掃は、6/17(月), 7/10(水)の2回実施した。</p> <p>(d) 5号館1Fの清掃が行届いておらず指導したが、改善がなかった。</p> <p>(e) 寮生会と協力して対面式を実施した。1年の生活態度があまりよくなかった。</p>
<p>2. 階長・副階長、指導寮生の役割の明確化</p> <p>(a) 登校カードの掲示の徹底と遅刻への対応</p> <p>(b) 郵便配達当番と階長の役割分担の明確化</p> <p>(c) 共用スペース（談話室や補食室）に対する清掃意識の涵養と清掃</p>	△	<p>・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況)</p> <p>正副寮長が仕事をきちんとしている感はあるが、ゴミの分別も含めて、共用スペースの整理整頓については不十分だった。</p>
<p>3. 寮生会企画の充実</p> <p>(a) 寮生に自立を考慮してもらった企画の実施</p> <p>(b) 寮祭の充実（実施内容の指導を含む。）</p>	○	<p>・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況)</p> <p>(a) 4/11 新入寮生歓迎会, 5/9 1年生防災訓練, 6/21～夏の寮祭, 8/6 花火大会, 10/30 避難訓練, 10/31 じゃがバター配付, 12/17 クリスマス会, 1/10～冬の寮祭, 2/18 5年生卒寮祝賀夕食会, その他にフリーマーケットを実施した。</p> <p>(b) ネットワーク講演会を冬の寮祭とからめ実施し、ネットワーク違反者12名と1年生61名の73名が出席した。</p>
<p>4. 学習習慣の涵養と学習支援体制の整備</p> <p>(a) 低学年勉強会の開催</p> <p>(b) コアタイム定着目的の巡視を実施</p> <p>(c) ネットワークの学習面での利用促進</p>	△	<p>・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況)</p> <p>(a) 3週間前の5/13, 7/8, 11/11, 1/20の週に計4回実施した。</p> <p>(b) チェック方法の見直しが必要である。</p> <p>(c) 使用量超過違反は大幅に減少したが、動画閲覧やゲームなど勉強の妨げになっているケースがまだ多くある。</p>
<p>5. 留学生(短期・長期含む)と日本人寮生との対話, 友好, 交流の拡大</p>	△	<p>・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況)</p> <p>交流会企画は、花火大会のみであった。国際寮の新設が決まり、今後多くの企画の実施を検討する必要がある。</p>
寮務委員会としての指導・表彰などの体制作りをする。		
<p>1. 努力し成果を挙げている寮生への顕彰として、「寮生努力賞」や「寮生模範賞」を授与する。</p>	○	<p>・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況)</p> <p>寮生会役員7名に功労賞、模範寮生42名に寮生努力賞を授与し、R02 新入寮生歓迎会で表彰する。</p>
<p>2. 「雄清通信」(印刷媒体)やwebページ等を利用し、保護者との連絡・連携を密にする。</p>	○	<p>・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況)</p> <p>夏号 9/30(郵送配付), 冬号 12/20(持帰り), 春号 2/26(持帰り)を3回発行した。</p>

3. ネットワークの不正使用（通信量が多い場合を含む）に対する有効な指導方法を確立・実施する。	△	・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況) 使用量超過違反は大幅に減少したが、動画閲覧やゲームなど勉強の妨げになっているケースがまだ多くある。
4. 自転車の無断借用, 整理整頓, 風呂の時間, ゴミの捨て方など生活面での指導強化	△	・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況) 自転車の盗難が2件だった。補食室や談話室の清掃は行届いていなかった。
5. 協力退寮者を違反点数だけでなく通学距離や学年, 学業成績や出欠状況等を加味して選考し, 協力退寮者候補者へは期を逸さずに連絡・指導する。	○	・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況) 協力退寮者選考基準は昨年と同様とし, 早めに協力退寮者候補には連絡をした。退寮者が少なかったが, 協力退寮者は0名であった。
6. 食事の摂取調査を実施し, 不摂取者へ指導する。	○	・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況) 2回, 寮生会役員が中心となり実施し, 低学年の不摂取者には指導を行った。1年生の摂取率が高く両調査ともに8割前後であった。
システムの見直し, 構築および施設面の充実を行う。		
1. 寮生活の手引きの PDCA サイクルの作成 2. 1年生への寮規則遵守指導法の確立	○	・第15回委員会資料1(令和元年度実施状況) 「寮生活の手引き」は, 寮生会役員もチェックし, 現状にあった改善がなされた。 1年生の生活態度がよくなり, 寮規則遵守指導法については, 次年度への課題とする。

(3) 令和2年度の活動に向けた提言

- ・1年生への寮規則遵守指導法を考える。
- ・ゴミの分別も含めて共用スペースの整理整頓について, 寮生会役員と協働して考える。

2-4 専攻科運営委員会

(1) 平成30年度の教育改善委員会からの提言された課題の改善状況

平成30年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況について以下に報告する。

今後の課題	評価	主な根拠資料等
(1) カリキュラムの見直し	○	大学との連携が開始され, また本科の改組が検討されており, それに対応してカリキュラムを検討することとなった。
(2) 大学との連携	○	第2回委員会議事概要(報告3) 第3回委員会議事概要(議題6) 第4回委員会議事概要(報告2) 第5回委員会議事概要(報告3) 第6回委員会議事概要(報告3) 第7回委員会議事概要(議題4) 第10回委員会議事概要(議題3,報告4)

(2) 令和元年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評価	主な根拠資料等
1. 学生への対応		
(1) ガイダンス, 履修科目指導と単位取得状況把握	○	第1回委員会議事概要(議題1) 第3回委員会議事概要(議題3) 第4回委員会議事概要(議題2) 第7回委員会議事概要(議題3,議題5) 第13回委員会議事概要(議題2,議題3)
(2) 進路指導, 学生指導	○	第1回委員会議事概要(報告1)

		第3回委員会議事概要(報告2) 第4回委員会議事概要(報告1) 第5回委員会議事概要(報告1) 第6回委員会議事概要(報告1) 第7回委員会議事概要(報告1) 第8回委員会議事概要(報告1) 第9回委員会議事概要(報告1) 第11回委員会議事概要(報告1) 第13委員会議事概要(報告1)
(3) 面談と学習教育目標達成度調査, 学生満足度調査, 授業評価 (4) 専攻科棟の管理	○	第2回委員会議事概要(議題2) 第9回委員会議事概要(報告6) 第12回委員会議事概要(報告2) 第2回委員会議事概要(報告2) 第4回委員会議事概要(議題5) 第9回委員会議事概要(議題3) 第10回委員会議事概要(報告6) 第11回委員会議事概要(報告3) 第12回委員会議事概要(報告4)
2. 専攻科入学試験	○	第2回委員会議事概要(議題4) 第3回委員会議事概要(議題1,議題2) 第4回委員会議事概要(議題1)
3. 学外実習	○	第2回委員会議事概要(議題2) 第3回委員会議事概要(報告1) 第4回委員会議事概要(議題3) 第5回委員会議事概要(報告2) 第6回委員会議事概要(報告2) 第7回委員会議事概要(議題6) 第8回委員会議事概要(議題2) 第9回委員会議事概要(議題2) 第11回委員会議事概要(報告2)
4. 特別研究に対する指導	○	第5回委員会議事概要(議題1) 第8回委員会議事概要(議題3)
5. 学士取得に対する指導		
(1) 学士取得に関する説明会	○	第5回委員会議事概要(報告3)
(2) 特別研究に関する指導	○	第5回委員会議事概要(議題1) 第8回委員会議事概要(議題3) 第11回委員会議事概要(議題2) 第11回委員会議事概要(報告1) 第13委員会議事概要(報告3)
(3) 特例適用への対応 (4) 学位授与申請	○	第2回委員会議事概要(議題5) 第4回委員会議事概要(議題4) 第2回委員会議事概要(議題3) 第7回委員会議事概要(議題1) 第12回委員会議事概要(議題1) 第13回委員会議事概要(議題1)
6. 意見交換会の実施	○	第11回委員会議事概要(議題3) 第12回委員会議事概要(議題3) 第13回委員会議事概要(報告3)
7. 教育課程, 授業	○	
(1) 令和2年度の科目, 学事歴, シラバス等		第6回委員会議事概要(議題2,3) 第7回委員会議事概要(議題7) 第9回委員会議事概要(議題1,報告6) 第10回委員会議事概要(議題1,議題2)
(2) 産業システム工学概論・産業シス		

テム工学輪講		第7回委員会議事概要(議題2)
8. 連携プログラム対応	○	第2回委員会議事概要(報告3) 第3回委員会議事概要(議題6) 第4回委員会議事概要(報告2) 第5回委員会議事概要(報告3) 第6回委員会議事概要(報告3) 第7回委員会議事概要(議題4) 第10回委員会議事概要(議題3,報告4)

(3) 令和2年度の活動に向けた提言

学習教育目標に対する学生の達成度や専攻科の教育に対する満足度を調査し、教育改善に役立つ施策が望まれる。

2-5 研究支援委員会

(1) 平成30年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評価	根拠資料等
・研究活動について支援の充実化を図る。	○	・外部資金獲得に向けた各種講演会や活動の案内をグループウェアにて随時行っている ・官公庁や財団法人等の外部資金情報をグループウェアにて随時行っている ・外部資金獲得の情報をグループウェアにて随時行っている ・ミマキエンジニアリング包括協定に基づく研究支援(第1回研究支援委員会議事概要) ・知的財産戦略室活動計画(第1回研究支援委員会議事概要)
・「動物実験」(第1回研究支援委員会議事概要)、「遺伝資源の取り扱い」(第2回研究支援委員会議事概要)について、当該事案に該当する研究、実験等が学内において確認された場合は、随時検討する。	○	・年度当初にアンケート調査があり、本校には該当する研究・実験等がないと回答した。しかし、確認された場合は、随時検討する。 (第1回研究支援委員会議事概要)
・「研究倫理教育」(第4回研究支援委員会議事概要)については、e-learning などにより、引き続き教職員に向けて実施する。	○	・3年に1回研修会を義務付けており、H30年度に実施した。今年度は新入教員のみ実施した。(第1回研究支援委員会議事概要)

(2) 令和元年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

活動項目と主要課題	評価	根拠資料等
1. 研究倫理教育 研究倫理教育の実施について各学科で周知	○	・3年に1回研修会を義務付けており、H30年度に実施した。今年度は新入教員のみ実施した。(第1回研究支援委員会議事概要)
2. 発明の評価・帰属、審査請求判定、特許権維持判定	○	・申請がある都度随時行った(第1回から5回研究支援委員会議事概要)
3. ミマキエンジニアリング包括協定に基づく研究テーマ	○	・ミマキエンジニアリング包括協定に基づく研究支援(第1回研究支援委員会議事概要) ・配分研究テーマを選定した(第4回研究支援委員会議事概要)
4. 「科学研究費助成事業」審査結果における研究費の配分	○	・科研費の審査結果が「A」であった教員6名に研究費10万円を追加配分

5. 「科学研究費助成事業」申請，添削支援者の募集，添削希望の募集	○	<ul style="list-style-type: none"> ・「令和2年度科学研究費助成事業の申請」（第3回研究支援委員会） ・「科学研究費助成事業への申請状況について報告」各教員に対し，R03年度も積極的に申請をするよう，引き続き周知を行う（第4回研究支援委員会） ・「科学研究費助成事業における添削支援者の募集について」「科研申請書の添削希望の募集について」添削希望者が9/13現在でいなかった。（第3回研究支援委員会議事概要）
6. 「間接経費」の有効な執行	○	<ul style="list-style-type: none"> ・各科からの要望をその都度本委員会で検討することを確認した（第1回研究支援委員会議事概要）
7. 研究支援委員会のポータルサイト		<ul style="list-style-type: none"> ・グループウェアに通知文などが掲載されている。https://nagano-nct.cybozu.com/g/portal/index.csp?pid=41

(3) 令和2度の活動に向けた提言

- ・研究活動について，学会の紹介，共同研究など業績を増やすための支援を図る。
- ・科学研究費助成金等外部資金獲得のため，採択率が高い外部資金情報の紹介などの支援を行う。

2-6 広報企画室

(1) 平成30年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評価	根拠資料等
サイエンス・ツアーの申込書やアンケートを，記入ならびに集計のしやすい方式に切り替えることを検討	△	本年度から原則依頼者にアンケートを実施し提出していただくようにした。依頼者にとって今後どういった記入・集計方法が良いかについて情報収集(webでの入力，集計は可能か?など)を行っていく。
教員校務における位置づけを明確にし，人事評価・職務待遇面におけるインセンティブを検討	×	該当する根拠資料がない。
サイエンス・ツアーやサイエンス・ライブへの参加者募集が年度当初の忙しい時期におこなっているため，事前予告(前年度3月)を実施	◎	3月15日付メール(【依頼】平成30年度サイエンスライブ・ツアーテーマの準備のお願い)にて事前予告を行った。次年度以降も実施予定。
費用対効果の目安に，産業フェア等への出展は，イベント全体への来場者数だけではなく，出展ブースにどれだけの人立ち寄り，資料配付やアンケート収集などの成果がどれだけあったのかを検討	△	ブースを立ち寄られた方に，情報端末で，アンケートを実施している。来訪者の長野高専の認知度については，把握できているが，具体的な成果の評価・精度については，今後，アンケートの質問項目等の検討が必要である。
負担が過度とならないよう，負担の分散化(企画室に留まらず各学科からの協力者を依頼するなど)や省力化(活動の回数を増やすのではなく，各イベントの中で広報効果をもっと上げる方法がないか，など)を，見に来る人側の視点も鑑みながら検討	○	産業フェアについては各教員，各部活動などへの出展依頼も行っており，負担の分散化はできつつある。
予算だけでなく，PR効果，作成者の負担なども含めて発行回数についての検討	△	PR効果という観点から，学園だより春号を夏号と統合し，より内容の充実した「春・夏号」を刊行することを検討した。結果的には，単独の春号の意義に十分意義が認められるということで，従来通り春号を存続することとなった。

グッズやノベルティの感想・意見などを調査し、次に作成するグッズへのフィードバックをかける	△	グッズ及びノベルティの評価は、企画室メンバーの意見が主となっていた。感想・意見を広く調査することは行わなかったが、今後の検討課題としたい。
アントレプレナーシップ、国際化など、あらたな取り組みとしてアピールしたい内容についてはトピックスの一カテゴリとしてではなく、長野高専基金のようにバナーなどを用意して誘導してはどうか。	△	今年度は長野高専紹介動画を作成したので、バナーの作成を外部に依頼し、トップページから動画を見れるようにした。動画は容量が大きくなるため、Youtube にアップし、ホームページに動画をリンクしてもらった。今後動画を多く載せていく場合は、新たなページを作成していく必要がありそうである。
「見る人」と「見てもらいたい人」の両方の立場に立って、トップページからどのように誘導すべきなのかを検討・再構築	×	令和元年度においてホームルームの完全リニューアルの計画があった。予算などの問題もあり、先送りとなっており、学科再編もあるためそれに合わせて、実行する予定である。
「何を見てもらいたいのか」の観点から、集まる(集める)記事のバランスを調整	△	夏号と冬号に関しては、中学生が見ることを意識した紙面作りを心掛けた。ただし、新しい企画は打ち出せず、ほとんど従来の記事を踏襲した。部活動の結果を新着情報には掲載されないように設定を変更した。
「一番伝えたいこと」を伝えるにもっとも効果的である大型トップバナーが活かされていない。イベントへの募集、工嶺祭、大きなニュース、新規コーナーへの誘導など(前述のアントレプレナーシップや長野高専基金などにも使えるはずである)、活用法は多岐にわたる。積極的な活用を検討頂きたい。	×	令和元年度においてホームルームの完全リニューアルの計画があった。予算などの問題もあり、先送りとなっており、学科再編もあるためそれに合わせて、実行する予定である。

(2) 令和元年度委員会からの活動方針に基づいた活動状況

活動項目	評定	根拠資料等
【公開企画部門】		
科学イベントの参加・実施	◎	2019年度4回広報企画室会議資料 No.1:「2019年度広報企画室活動のまとめ」(以下同様) <ul style="list-style-type: none"> ・2019まつもと広域ものづくりフェア(7/13・14)に参加, 11テーマを実施(参加者:教員5名, 補助学生19名, 来場者数14,150名) ・「体験と学びの環境博2019」併設イベント「キッズサイエンス in 環境博」(7/27,28)に参加, 2テーマを実施(参加者:教員2名, 期末試験前のため補助学生0名) ・産業フェア in 信州「キッズものづくり体験ランド」(10/26)に参加, 2テーマを実施(参加者:教員2名, 補助学生4名, 来場者数12,458名) ・長野高専キッズサイエンス2019(11/4)に参加, 20テーマを実施(参加者:教職員29名, 補助学生106名, 来場者数2,052名)
サイエンス・ツアー, サイエンス・ライブ	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・サイエンス・ツアー(出前授業)...テーマ募集期間4/17~5/7, 公開テーマ数39, 実施テーマ:55件(参加者総数2,067名) ・サイエンス・ライブ(公開講座)...実施テーマ:15件
産業フェアへの参加	◎	<ul style="list-style-type: none"> ・しんきんビジネスフェア(5/15)に出展(1ブース), 来場者数2,800名 ・ぞっこんさく市(10/5・6)に出展(2ブース), 来場者数53,000

		名 ・ 諏訪圏工業メッセ(10/17~19)に出展(2ブース), 来場者数 27,841名 ・ 産業フェア in 信州(10/25・26)に出展(5ブース), 来場者数 12,458名 ・ 上田産業展(10/25・26)に出展(2ブース), 来場者数 5,527名
【刊行物部門】		
広報・刊行物	○	・ 2020 学案内・学生募集ポスターの制作(4月) ・ 2020 学校要覧(日本語版)の制作(6月) ・ 2020 学校要覧(英語版)の制作(11~1月) ・ 学園だより(春号, 夏号, 秋冬号)の発行・配布 ・ エコバッグ・オリジナルシャープペンシル・消しゴム・定規の制作
【情報発信部門】		
公式 Web サイトの案内チラシの作成・配布	○	・ チラシの版は昨年度作成のものを利用した。96000部を印刷し全県ならびに隣県の中学生に配布した。ホームページ誘導チラシの配布を6月に行い、それに伴い7月のホームページへの新規アクセス数は10%(1000名ほど)増加している。ただし費用対効果には検討の余地がある。
長野高専紹介動画の掲載	○	・ 動画はファイルサイズが大きいため、情報発信部門の google アカウントを用いて、Youtube に載せて、JBN によりリンクを張ってもらった。
Web システムの保守	○	・ システム死活監視, システムトラブル対応, バックアップならびにその管理, 以上のサービスを導入し継続中。ホームページへのアクセスにおいて、時々、警告の報告があるが、具体的な対応は今のところしていない。
学生活動紹介ページの管理	○	・ 運動部に関する記事が多いと指摘もあったことから、部活動の更新は新着情報には表示されないよう設定を変更した。 ・ 体育祭, 工嶺祭の記事などは個人情報保護の問題から更新せずに記録だけ残してある。

(3) 令和2年の活動に向けた提言

<広報企画部門>

- ・ サイエンス・ツアーの申込書やアンケートを、記入ならびに集計のしやすい方式に切り替えるあるいは併用することができるか、またそれによって作業効率の改善が期待できるかを検討する。
- ・ サイエンス・ツアーも含めた科学イベントへの参画の状況について、教員間で大きく差があり、参画教員の確保も困難となっている。参画教員のモチベーション維持のためにも、教員校務における位置づけを明確にし、人事評価・職務待遇面におけるインセンティブを検討してはどうか。
- ・ グッズやノベルティの感想・意見などの調査方法について検討し、次に作成するグッズへのフィードバックをかける。

<刊行物部門>

- ・ 学園だよりの発行回数削減は、予算が問題ということならば一部をオンライン配信のみにする方法もあるのではないか。たとえば情報発信部門で作成・配布している中学生向けチラシへ学園だよりへの QR コードを載せたり、保護者へは成績通知書に QR コードを載せたプリントを同封したりするなど、予算を抑えて周知する方法もあろう。予算だけでなく、PR 効果、作成者の負担なども含めて発行回数について検討頂きたい。
- ・ すでに広報イベントで配布したグッズやノベルティを手にした生徒が本校に入学してきている。たとえば定規などは印刷された方眼が便利であることや作りの丈夫さを理由に多くの学生が未だ活用している。グッズやノベルティの感想・意見などを調査し、次に作成するグッズへのフィードバックをかけてはどうか。

<情報公開部門>

- ・ 動画の掲載も youtube から可能であるため、今後、動画による広報も検討してもよいかもかもしれない。
- ・ トップページからの誘導がないため、新規に掲載したインタビュー記事(たとえば研究者ピックアップ)や、

こまめに更新を続けている校内活動の記事(たとえば図書館)がまったく目に付かない。「見る人」と「見てもらいたい人」の両方の立場に立って、トップページからどのように誘導すべきなのかを検討・再構築して頂きたい。

- 「一番伝えたいこと」を伝えるにもっとも効果的である大型トップバナーが活かされていない。イベントへの募集、工嶺祭、大きなニュース、新規コーナーへの誘導など(前述のアントレプレナーシップや長野高専基金などにも使えるはずである)、活用法は多岐にわたる。積極的な活用を検討頂きたい。

2-7 国際交流センター

(1) 平成30年度の教育改善委員会から提言された課題と改善状況

今後の課題	評定	根拠資料等
従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしていく。	○	令和元年度国際交流センター活動報告書

(2) 令和2年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

活動項目	評定	根拠資料等
学生に向けた活動 その1 (1) 国際的視野の広がりや国際的コミュニケーション力の向上の育成 (2) 語学力または英語力の向上 (3) 外国機関等に所属する外国人との交流事業を実施する (4) 海外留学・語学研修等の関心の向上 (5) 学生の国際的学術活動(教育、研究、国際会議等への出席)の推進英語弁論大会への支援 (6) 海外インターンシップのあり方の検討	○	海外研修の企画と実施 ・海外研修派遣 香港 IVE (22名予定、中止) 台北科技大学 2名 リパブリックポリテクニク 14名 ダナン工科大学 2名 カンボジア環境省 2名 ハイフォン日本語学校 4名 日特建設 2名 中国国際放送局 3名 (令和元年度国際交流センター活動報告書)
学生に向けた活動 その2 留学生 (1) 外国機関等に所属する外国人との交流事業を実施する (2) 留学生の受け入れ態勢の整備 (3) 留学生の生活を支援する環境の整備	○	本校在籍留学生、海外からの留学生への対応 ・留学生との懇談会 6/18, 2/25 ・信越地区国立高等専門学校外国人留学生交流会 10/5-10/6 ・留学生実地研修旅行 1/25 ・篠ノ井高校との交流 6/15, 7/7, 1/19 ・市立長野中学校との交流(中止) (令和元年度国際交流センター活動報告書)
教職員に向けた活動 (1) 教職員の国際性豊かな教養と感性に関する研修の機会の増加 (2) 外国機関との交流・提携(教育・研究・文化等)の推進 (3) 教職員の国際的学術活動(在外研究、共同研究、国際会議等への出席)の推進	○	(2)に対して、協定調印に関する事務的手続き (令和元年度国際交流センター活動報告書)
海外学生を対象とした活動 (1) 交流を目的とした活動 (2) 研究を目的とした活動	○	(1) 香港 IVE12名、タイ OVEC30名との交流 (2) 香港 IVE 3名、シンガポールポリテクニク 4名、リパブリックポリテクニク 3名を各研究室で受入 (令和元年度国際交流センター活動報告書)
東京日本教育センターとの交流	○	・8/30 学生 4名と教員 2名が訪問して留学

		生 51 名と教員 4 名と交流した ・ 10/20 に予定していた工嶺祭へ 54 名招待する企画は中止となった。 (令和元年度国際交流センター活動報告書)
外部機関との連携	○	日本エマージェンシーアシスタンス (EAJ) 社が提供する留学生危機管理サービス (OSSMA) を契約した。(令和元年度国際交流センター活動報告書)
広報活動	○	学校の HP に 10 件の記事を掲載した。(令和元年度国際交流センター活動報告書)
「国際交流センター活動報告書」の作成	○	・ 活動報告書の作成について説明と依頼をした。(第 8 回) ・ 3 月に報告書を作成した。

(3) 令和 2 年度委員会委員会の活動に向けた提言

- ・ 従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしていく。

2-8 教育改善委員会

(1) 平成 30 年度の教育改善委員会から提言された課題の改善状況

今後の課題	評定	根拠資料等
① 教育改善報告書の評価項目の検討	×	評価項目についての検討は行われていない。
② 機関別認証評価での改善すべき点として挙げられた事項に関する検討	○	関係する部署において検討されている？

(2) 令和元年度委員会の活動方針に基づいた活動状況

主な活動内容	評定	根拠資料等
① 令和元年度各種委員会の活動状況の点検	○	第 6 回で報告、提言を決定
② 授業改善システムの実施と評価・点検	○	第 2 回委員会 「授業改善用チェック・提言シート」の作成によりチェックを行い、各教員に結果をフィードバックした。点検・改善については、次年度の本システムの実施により確認する。
③ 学習・教育目標の達成度に関する調査の点検及び自己評価シートに関する改善方法の点検	○	第 5 回委員会 学習・教育目標の達成度に関する調査結果について、学科ごとにコメントや要因分析をすることとなった。 第 6 回委員会 昨年度および今年度の実施結果を報告書に掲載することとした。
④ 学生との意見交換会に関する点検	○	第 6 回で報告
⑤ 平成 30 年度参与会で出された意見に基づいた改善点の整理	○	第 6 回で報告

<p>⑥卒業生・企業向けアンケート調査の実施</p>	○	<p>第4回委員会 本年度はアンケートの実施年（5年毎，前回平成26年度）にあたり，実施要項を検討した。</p> <p>第5回委員会 アンケートの回収状況の報告を受け，回答率を上げる方策，どのように教育改善に生かすかを検討した。</p> <p>第6回委員会 アンケートの回収状況ならびに回答状況について報告があった。</p>
<p>⑦実施済FD研修会の効果の点検及びその改善</p>	○	<p>第6回で報告</p>
<p>⑧FD研修会の企画・開催及び報告書の作成</p> <p>第1回「学習指導要領改訂で目指される学力観」8/2</p> <p>第2回「教育の方法」9/13</p> <p>第3回「クラスルーム・イングリッシュ研修」9/19</p> <p>第4回「いじめ予防と学生のためのソーシャルワーク」1/22</p>	○	<p>第2回委員会 アンケートの見直しを行った。FD研修会の記録については，パワーポイントはもらわないこととし，配布資料がない場合は簡単な講演内容を記録することとなった。</p> <p>第4回委員会 FD研修会の実施報告を行った。</p>
<p>⑨エビデンスの有効活用の検討</p>	○	<p>第3回委員会 有効活用できるか検討することとなった。</p> <p>第4回委員会 利用にあたり，暗号化，個人情報の取り扱い，他分野でのデータの利用などについて議論した。</p>
<p>⑩エビデンス収集・保管の改善</p>	○	<p>第1回委員会 後期の提出について，前もって準備をしてもらうため期間を早く，また短縮した。</p> <p>第3回委員会 前期のエビデンス提出について，督促の通知を出すこととした。</p> <p>第4回委員会 非常勤講師担当科目のエビデンス収集について検討した。</p> <p>第5回委員会 本年度のエビデンスの提出状況についての報告を受け，後期の提出について検討した。</p> <p>第6回委員会 後期のエビデンス提出状況について報告があった。</p>

⑪試験問題レベルの保証確認	○	<p>第3回委員会</p> <p>前期末試験について実施内容を確認し、メールで学生課より実施を依頼した。また、学年末試験については、メールで学生課より実施を依頼した。</p> <p>第6回委員会</p> <p>レベル保証確認の実施状況について報告があった。</p>
⑫各部署への検討依頼，回答の集約	○	随時実施
⑬メール目安箱への対応	○	<p>第4回委員会</p> <p>投書について関係部署に対応を依頼した。</p> <p>第6回委員会</p> <p>今年度の投書ならびに対応状況について報告があった。</p>
⑭令和元年度教育改善報告書の編集・発行	○	第6回で報告，5月中旬にHPで公開する。

(3) 令和2年度の活動に向けた提言

- ① 卒業生・企業向けアンケート調査結果の分析・評価
- ② 学習・教育目標の達成度に関する調査の活用

3. 令和元年度における各種点検報告

3-1 卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査実施結果

1. 卒業生および企業に対するアンケート調査の実施方針

本調査は平成 19 年 5 月 11 日に教育改善委員会で決定された申し合わせ事項も基づいて実施するものである。申し合わせ事項の必要部分を以下に抜粋する。

1-1 目的

- (1) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力に満足しているか、また、これらが（修了）後に仕事等で役に立っているかの意識について把握する。
- (2) 本校の本科卒業生および専攻科修了生が、在学時に身につけた学力、資質、能力が、社会においてどのような評価を得ているか把握する。
- (3) 本校の教育の成果（卒業生の満足度、社会の評価等）を点検することにより、その後の教育改善に役立てる。

1-2 内容

(1) 調査対象者

- ・長野高専本科卒業生
- ・長野高専専攻科修了生
- ・長野高専本科卒業生と専攻科修了生の就職先および進学先機関

(2) 調査回数

- ・原則として、5年毎に一回実施する。

1-3 令和元年度実施に関する基本方針

令和元年度実施に関する基本方針

1. 平成 28 年および 29 年 3 月専攻科生修了生と本科卒業生もアンケート調査の対象とする。
2. 専攻科修了生は全員（H27 年度 29 名，H28 年度 26 名，合計 55 名）とし，本科卒業生については各学科 20 名，全数 255 名とする。
3. 人選については本科卒業生に対する就職者・進学者 20 名の内訳は学科に一任する。
4. 人選された卒業生の就職先および進学先機関にアンケート調査を依頼する。
5. アンケート内容は別紙の通りとする。
6. 実施時期，令和元年 12 月から令和 2 年 1 月の間に実施する。
7. アンケート発送，回収の業務は事務部にお願いする。
8. 本調査の集計・分析・点検は当委員会が行う。

2. 実施方法

前記基本方針により，アンケート項目を決定し，令和元年 12 月末の住所が確認できた修了生および卒業生に対してアンケートを 1 月 7 日に送付した。内訳は修了生 52 名，卒業生 209 名の合計 261 名である。回答の締切りを令和 2 年 2 月 14 日と設定した。回収総数は，50 通であった。

3. まとめと提言

参考資料として付録 1 に，教育改善委員会から提出された【令和元年度 卒業生および企業等に対するアンケート調査実施結果】を示す。

調査結果の分析は令和 2 年度に行う。

3-2 学習・教育目標の達成度に関する調査報告書の点検

以下に平成 30 年度に新たに作成した自己評価シートによる、平成 30 年度および令和元年度の学習・教育目標の達成度自己評価調査結果を付録 2 示す。

○分析

平成 30 年度の C 科の各学習教育目標に対する達成度が 35~40%と高くなっている。これは他の学科に比べて、将来が体感できる実務的な実習が多いことが考えられる。また学年によりクラスの雰囲気、担任や教員との関係などが異なり、よい雰囲気や関係があると学生の理解度、満足度の向上があるのではないかとと思われる。

3-3 学生との意見交換会に関する点検

(1) 本科学学生との意見交換会の点検

学習・教育目標、教育課程、教育方法、評価方法、教育環境、学校行事などに対する意見や要望を学生から聞き、学校からそれらに対して回答する形式の意見交換会が、教職員および学生が一堂に会して例年行われている。今年度は 12 月 11 日（水）午後 15 時から午後 16 時まで、学生の代表である学生会役員を中心とした学生 10 名と学校側 7 名との意見交換会を実施した。学生側参加者の内訳は、令和元年度正副学生会長、学生会役員 4 名及び意見を述べる学生 4 名であった。学校側の参加者は、校長、教務主事、学生主事、寮務主事、学生主事補（学生会担当）、学生課長、学生係長であった。意見交換は、学生側から提出された「学校に対する意見・要望書」（令和元年 10 月 1 日付提出）を担当部署で回答を考えて頂き、意見交換会当日に口頭で回答を学生に示す形式を取った。直接意見交換会の場で意見を述べたい学生が 4 名おり、レポート提出で、授業中のスマートフォンの取扱、プールの修理、試験関係についての意見があり、各担当部署で回答を行った。その後意見・要望書に書かれたことに関して、各担当部署より口頭で説明があった。さらに、学生から違反に対する学校の指導と平日昼間の入寮の要望があった。付録 2-1 に「2019 年度学校と学生の意見交換会学校に対する意見・要望書」を示す。

まとめ

学生から出された意見は、全クラスから提出されたアンケート結果を、学生会役員が取りまとめ、学校側に提出したものであり、時間と労力を要した貴重で切実な学生の声と言える。学校側は、これらを真摯に受け止め、改善に向けて学生の力も借りながら対応する必要があると思われる。学生からの要望は多岐に渡り、建設的な要望もあり、長野高専をより良くする視点で、学生のために教職員が一体となり改善を推し進める必要があると思われる。

意見交換会の最後に、校長先生が「学校側も規則やルールを作ったら、結論だけではなく「なぜこのルールを制定したか」をきちんと説明する必要性を感じた」と言われたように、いろいろな意見・要望に対して学生への丁寧な説明・回答が必要であると感じた。

(2) 専攻科学生との意見交換会の点検

今年度の意見交換会は、令和 2 年 2 月 18 日（火）12:50 から 14:20 まで、専攻科 1, 2 年学生と教育・研究環境、専攻科カリキュラム等に関して意見交換を行うことで今後の教育改善に役立てることを目的として行われた。学生側参加者は、専攻科 1 年生と 2 年生、教職員側の参加者は、専攻科長、専攻長、専攻科運営委員、学生課課長であった。

意見交換会の内容は、設備、施設、講義、進路、その他で、専攻科生との活発な議論が行われた。専攻科生からのアンケート結果を、付録 2-2 「令和元年度 専攻科・意見交換会資料」に示す。

まとめ

専攻科学生からの意見・要望も多岐に渡り、活発な意見交換が行われた。このような機会をもとに、学生への理解を深め、教育改善を進めることが重要である。

3-4 平成30年度参与会の報告書の点検と出された改善点の整理

平成31年2月8日に第15回長野高専参与会が実施され、その概要が報告書「第15回 長野工業高等専門学校参与会議事概要」にまとめられている。この報告書の内容に基づき、本校が今後取り組むべき課題は何か、以下に報告する。

1. 参与会の概要

(1) 出席者

- ・参与会のメンバー → 9名
- ・本校関係者 → 校長他23名(内 オブザーバー7名)

(2) テーマ → 「長野高専における高度化再編成について」

(3) 協議題

- ・国立高等専門学校機構の次期(第4期)中期目標の方向性について。
- ・長野高専における学科再編についての取り組みの現状について。
- ・平成29年度参与会評価結果に基づく本校の取り組みについて。

(4) 議事内容

参与会会長である天野良彦信州大学工学部長が議長となり、議事が進行された。上記の協議題ごとに本校担当者より配布資料に基づいた説明があり、その後質疑応答が行われ、参与会のメンバーよりいくつかの貴重な提言をいただいた。

2. 今後の課題

参与会の質問・意見を基にして、今後本校が取り組むべき課題を整理した。

- (1) 製作体系における法人の位置付け及び役割の検討。
- (2) 中期目標期間の検討。
- (3) 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項の検討。
- (4) 業務運営の効率化に関する事項の検討。
- (5) 財務内容の改善に関する事項の検討。
- (6) その他業務運営に関する事項の検討。
- (7) 高度化再編成の検討。
- (8) 本校の取り組み(入試, 広報, 教育, 国際, 研究, 進路)の検討。

なお、長野高専ホームページ 外部評価報告

<http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/index.php>

を参照されたし。

3-5 実施済み研修会の効果の点検およびその改善

令和元年度には4回のFD研修会が開催された。研修会の効果を点検するため、FD研修会終了後に参加者に対してアンケート調査を実施した。研修会の内容が活かされているかどうか、開催回ごとに分析する。

(1) 第1回「学習指導要領改訂で目指される学力観～教育の三つの柱と「主体的・対話的で深い学び」の関連から～」(8/2実施, 42名参加)

テーマ設定については、「あなたの求めるテーマでしたか」の問いに満足との回答が54%、やや満足との回答が38%であり、肯定的な回答が高い割合を示しており、妥当な開催であったと考えられる。講演内容への興味については、大いにもてたとの回答が62%、ややもてたとの回答が32%であり、関心の持てる内容であったと考えられる。また、今後の教育活動の参考になるかについては、大いになったが46%、ややなったが49%であり、肯定的な回答が多かった。開催時期については、適当であったとの回答が72%であったが、その他の時期がよいとの回答では、試験期間以外での開催がよいとの回答が複数あり、開催時期については考慮する必要がある。

学習指導要領の改訂により、中学校での学び方がどのようなものになるかを知ることができ、高専での今後の教育方法を考える上で、学ぶことの多い研修になったといえる。

(2) 第2回「教育の方法—発達・〈教師-生徒〉関係をふまえて—」(9/13実施, 30名参加)

テーマ設定については、96%が「あなたの求めるテーマでしたか」の問いに満足(38%)、やや満足(58%)と回答しており、適切なテーマといえる。講演内容に興味をもてたかとの問いについては、89%(大いにもてた31%、ややもてた58%)が肯定的に回答しており、関心の持てる内容であったといえる。今後の教育活動の参考になるかについては、大いになった(31%)、ややなった(54%)で85%であり、肯定的に受け止められている。開催時期については、適当であるとの回答が77%であったが、その他の時期がよいとの回答では、2週連続を避ける、授業のある時期がよいなどの回答があった。

(3) 第3回「クラスルーム・イングリッシュ研修—グローバルエンジニア人材育成プログラムに向けて—」(9/19実施, 47名参加)

テーマ設定については、「あなたの求めるテーマでしたか」の問いに対して、満足が83%、やや満足が17%であり、満足との回答が高く、適切なテーマでの開催であった。講演内容に興味をもてたかとの問いについては、大いにもてた71%、ややもてた29%であり、関心の高い講演内容であった。今後の教育活動の参考になるかについても、大いになった76%、ややなった24%であり、今後の教育につながる講演であったといえる。開催時期については、適当であるとの回答が71%であったが、研修会が第2回からの連続になり、計画的な実施を望む意見があった。

これから本校が取り組んでいくグローバルエンジニア人材育成プログラムに関する研修会であり、関心が高く興味をもたれたテーマであったと思われる。授業の際に、実際につかえる内容を練習することができ、クラスルーム・イングリッシュがどのようなものかを知るよい機会になった。

(4) 第4回「いじめ予防と学生のためのソーシャルワーク」(1/22開催, 63名参加)

スクールソーシャルワーカーおよびいじめの防止と予防に関する講演があり、学年末を迎えた時期に学生への見守り、接し方を知る機会になった。アンケート調査は行われなかったが、参加者が多く、関心の高いテーマであったと思われる。

(5) まとめ

いずれの研修会も、テーマ設定、興味の高さ、今後の活用についての評価が高く、今後の教育改善につながることを期待できる講演会を開催できたと考えられる。一方、第3回研修会が急に計画されたことから、第2回研修会と第3回研修会が連続の開催となり、計画的な実施を望む感想があった。アンケートの自由記述では、取り上げてほしいテーマがいくつか挙げられており、それらを参考に実施時期などを考えながら計画していくことが必要である。

(6) 参考資料

本校で開催されている過去8年間のFD研修会のテーマは以下の通りである。
平成30年度

- ・第1回 Introduction to CDIO
- ・第2回 サイバーセキュリティの重要性～攻撃の手口と対策～

平成29年度

- ・第1回 教育・研究活動における著作権
- ・第2回 モデルコアカリキュラムの実践推進—東京高専におけるカリキュラム改革
- ・第3回 授業力向上研修(CTT+のスキルを授業に取り入れ、アクティブ・ラーニング型授業へ)
- ・第4回 情報セキュリティ教育の重要性と信大での取組み

平成28年度

- ・第1回 高専卒業生アンケートから見る高専教育の地平【高専の今後】
- ・第2回 情報セキュリティに関する講話・本校におけるセキュリティインシデントの事例【情報セキュリティ】
- ・第3回 アクティブ・ラーニング【教育手法】

平成27年度

- ・第1回 科研費獲得の方法とコツ【研究費獲得】
- ・第2回 アクティブ・ラーニング【教育手法】
- ・第3回 高専卒業生キャリア調査【調査結果】

平成26年度

- ・第1回 情報モラルと情報セキュリティ【情報セキュリティ】
- ・第2回 学生の自主性を伸ばす方策【教育手法】
- ・第3回 高専を取り巻く現状と新たなる高等教育機関【高専の今後】

平成25年度

- ・第1・2回 心の健康【メンタルヘルス】
- ・第3回 イノベティブジャパンプロジェクト【教育手法】

平成24年度

- ・第1回 キャリア形成支援【キャリア教育】
- ・第2回 モデルコアカリキュラム【教育手法】

平成23年度

- ・第1回 科学研究費採択数アップのための講習【研究費獲得】
- ・第2回 サンデル的対話型講義の思想と方法【教育手法】

4. 令和元年度 FD 研修会実施報告

1. 研修会概要

日 時：令和元年 8 月 2 日（金） 14：30～16：00

場 所：100 番教室

講 師：信州大学教育学部 西 一夫 教授

題 目：学習指導要領改訂で目指される学力観 ～教育の三つの柱と「主体的・対話的で深い学び」の関連から～

対象者：長野高専教職員

出席者：42 名（M5, E3, S4, J5, C6, G19）

2. 講演内容

2-1 久保田教務主事から

(1) FD 研修会の意義について

(2) 学習指導要領について

2-2 西講師による研修

(1) 教育改革の動向

・基礎学力の重視

・2022 年 学習指導要領（高等学校で学年進行改訂）

(2) 学習指導要領の改訂

・なぜ、大きな教育改革が中等教育を中心に行われるか、社会状況の変化について

・学校教育の改革

どのような力（資質・能力）を身につけるのか、何ができるようになるのかに移行

自分で考え、表現し、判断し、実社会で役立つ

どのように学ぶのか、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業

(3) 主体的・対話的で深い学び」とアクティブ・ラーニング

・生徒自身が主体的、能動的に参加する授業、学習展開へ

・教科、科目の新設

・小学校での「プログラミング教育」

2-3 質疑応答

・Q：指導要領の改訂、自分で考え表現するというのは海外で行われているのか、日本で独自に出てきたものか。

A：アメリカ、フィンランドなどで行われており、主体的な学習が行われている。日本で独自に出てきたものではない。

・Q：これまでの教育は、学んだことをしっかり理解しているかで評価した。これからは、評価規準が変わっていく。教員がこれから評価していくときに何に注意したらよいか。

A：評価をどのように行うかについて、規準が出ている。基礎学力をみる、また、今日の授業内容について、ふり返りをどうさせるかではないか。

・Q：自分がこれまで、ふり返りをしていない。自分が評価する人間であるためにはどうするか。

A：ふり返りをさせていくことから始める。観点をもってのふり返りが必要である。

・Q：大学編入学、就職試験などすぐに変化していかないものにどう対応していくか。

A：大学編入学や就職試験は、求められている学力観とは違っている。3 年生までの学力をどうみるか、3 年生までを 4・5 年生にどうつなげて行くかを考えるしかないのでは。

・Q：学校の規模によって、主体的な学習ができる学校とそうでない学校があるか。

A：大規模でも小規模でも 1 学級 30 人程度であり、差はそれほどない。小規模で話し合いが成立しないときがある。

・Q：働き方改革との関連は。

A：リフレッシュできる時間を設けることで授業の質を高める。

・Q：学習の課題を考えるコツ、こんな課題に高専生はついてくるといえるものがあるか。

A：例えば国語では、誰にも分かるものであるかを考えさせる、事前に課題をさせておく反転授業が考えられる。

・Q：カリキュラムマネジメントのやり方、方向性はあるか。MCCはあるが。

A：まだない。できるところからやっていく。話し合いの分担での用語を統一する、国語の論理的な思考と数学とを関連させるなど。

3. アンケート集計結果

37名からの回答があった。

項目1：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか。

23：している

(11：講習会・セミナー参加，9：文献調査，9：ディスカッション，3：その他)

14：していない

項目2：あなたの求めるテーマでしたか。

20：満足 14：やや満足 3：不満足

項目3：今回の内容に興味をもちましたか。

23：大いにもてた 12：やかもてた 2：もてなかった

項目4：今後の教育活動の参考になりましたか。

17：大いになった 18：ややなった 2：ならなかった

項目5：開催時期は適当でしたか。

26：適当であった

10：その他の時期がよい

- ・試験期間以外
- ・9月ごろ，休み中
- ・夏季休業中など学生がいない時期
- ・学生の勉強意欲が最も高まっている試験期間中の開催は避けて欲しい
- ・忙しい
- ・特に希望日は無いが，参加者が少なすぎたため
- ・採点期間と重ならないような時期
- ・テスト期間は採点など時間を自由に使用したいので通常の時にして欲しい
- ・達成度試験期間外であれば

項目6：今後のFD研修会取り上げてほしいテーマ，ご希望，ご意見などありましたら，ご記入ください（自由記述）

- ・研修時間を短くして欲しい
- ・魅せるパワーポイント講座のようなプレゼン資料の作成スキル向上についての内容
- ・課外活動の在り方について 信州大学 結城先生
- ・主体的な学び，対話的な学び，深い学びをどのように評価すべきか，自分で考え，表現し，判断できているをどの観点から評価できるのかを知りたい
- ・おもしろい授業のしかたについて
- ・普通の高校での授業に何が求められ始めているか，理解できた気がする。高専は実習授業，レポート課題，技術系の同好会などが整っており，他校とは差別化が十分にできており，先進的なシステムであると実感できた。一方で，高専の教育に求められるものが多様すぎるので，方向性付けのため，これに近いテーマでもっと様々な分野（物理系，理科系科目など）の教師の取り組みを知りたいと思う。
- ・研究室内のネットワークの構築とセキュリティ，多様化（障害を持つ，グレーも含む）する学生との接し方

4-2 令和元年度第2回FD研修会実施報告

令和元年度 第2回FD研修会は以下により時間通り実施された。

- ・司会：鬼頭先生，記録：長坂
 - ・挨拶：土居校長先生
 - ・講師紹介：鬼頭先生
 - ・講演：長野県立大学 助教 寺川 直樹 先生
 - ・まとめ：教務主事
 - ・質疑応答（1件）
- ① ZPDについて。

- ② 授業をやったの感想について。
- ③ レディネスについて。

- ・参加者：33名
- ・アンケート：26件

令和元年度 第2回 FD 研修会 アンケート用紙集計

1. 研修会の日程等

日時 令和元年9月13日(金) 14:00 ~ 15:30
 場所 100番教室
 講師 長野県立大学 寺川 直樹 先生
 テーマ 教育の方法 一発達・〈教師-生徒〉関係をふまえて

2. アンケート (いずれかの選択肢の番号に○を付けて下さい。)

項目1：あなたは学校が用意したFD以外に教育技術向上のための活動をしていますか。

- 1：している (62%) *下記から選んでください。
 (講習会・セミナー参加, 文献調査, ディスカッション, その他 ())
 (31%) (19%) (8%) (8%)
 2：していない (38%)

項目2：あなたの求めるテーマでしたか。

- 1：満足 (38%)
 2：やや満足 (58%)
 3：不満足 (4%)

項目3：今回の内容に興味をもてましたか。

- 1：大いにもてた (31%)
 2：ややもてた (58%)
 3：もてなかった (11%)

項目4：今後の教育活動の参考になりましたか。

- 1：大いになった (31%)
 2：ややなった (54%)
 3：ならなかった (15%)

項目5：開催時期は適当でしたか。

- 1：適当であった (77%)
 2：その他の時期がよい
 (15%) *下記に時期を記載ください。
 ()

- ・2週連続はさけてほしい。
- ・通常の講義がある時期が良い。
- ・夏季休暇中それなりの業務をしているため、平常時を望む。
- ・できるだけ年度の始めのころに実施すると授業に導入することがより可能になると思われる。

項目6：今後のFD研修会取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください (自由記述)

- ・FDを夏季に毎週入れると休暇をとりにくい。
- ・高専教員はそれぞれバックグラウンドが異なるため研修のあり方やテーマ設定は難しい面があると思います。
- ・多様化する学生への対応。
- ・教育に関するFDならば、教育には経験というものが重要な要素であるため、ベテランの講師にお願いしたい。
- ・今回のテーマは非常に関心があったが講演の内容が学術的で抽象的な印象だった。

正直な所この研修で得た知識を高専の教育へどのように応用すれば良いのか全くわからない。

・モチベーションの低い学生や発達障害等のある学生へ具体的に何をどう取り組んで良いのか事例も挙げて指導してもらえる研修が受けたい。

例えば、アクティブラーニングの理念ではなく実際にどのような資料を用意したり何を check しているかどんな応答をすればいいかなど知りたい。

4-3 令和元年度 第3回 FD 研修会 実施報告

1. 研修会概要

日 時：令和元年9月19日（木）14：00～15：30

場 所：図書館2階 第2・3セミナー室

講 師：一般科 赤瀬 正樹 准教授

題 目：クラスルーム・イングリッシュ研修

ーグローバルエンジニア人材育成プログラムに向けてー

対象者：長野高専教職員

出席者：47名（M3, E9, S6, J4, C2, G21, J2）

2. 講演内容

2-1 土居校長から

- ・グローバルエンジニア育成事業（基礎力養成・低学年中心）に採択された。成果目標を掲げているの久保田責任者、富永、高桑実行委員、事務部のもと、全員で参加・実行をする。

2-2 久保田グローバルエンジニア育成事業責任者から

- ・グローバルエンジニア育成事業（基礎力養成・低学年中心）に採択された「名称：プラクティカルイングリッシュ＝プログラムによるグローバルマインドを持ったエンジニア」についての説明（これまでの取組と課題、課題に対する取組、本事業を通じて達成する成果目標）があった。

2-3 赤瀬講師による研修

- ① グローバル人材育成について（英語ができれば職業人として有能なのか？）
- ② クラスルーム・イングリッシュとは（定義と意義、授業のどの場面で英語を使用すべきか）
- ③ 実践に向けて（使用のための心構え、留意点、教員のための重要表現（実際に発話を行う））
- ④ 授業実践事例（実際の授業風景のビデオを見ながらの解説）

2-4 質疑応答

- ・Q：間違った文法や発音でもいいのですか
A：姿勢が大切、発音は間違っても日本語英語でもよい。間違っていたら学生が指摘します。一緒に学んで行きましょう。
- ・Q：壁を作る、目を反らすなどの学生の反応への対応はどうしますか
A：シャイな学生が多いので、始め英語で説明すると尻込みをする。学生もすこしずつ慣れていくので、発話ができるようになる。まずはできるところから始めましょう。

なお、付録に今回のプレゼン資料、久保田先生の「プラクティカルイングリッシュ＝プログラムによるグローバルマインドを持ったエンジニア育成事業」と赤瀬先生の「クラスルーム・イングリッシュ研修ーグローバルエンジニア人材育成プログラムに向けてー」を掲載する。

3. アンケート集計結果

41名からの回答があった。

項目1：あなたの求めるテーマでしたか。

34：満足 7：やや満足 0：不満

項目2：今回の内容に興味をもてましたか。

29：大いにもてた 12：ややもてた 0：もてなかった

項目3：今後の教育活動の参考になりましたか。

31：大いになった 10：ややなった 0：ならなかった

項目4：開催時期は適当でしたか。

29：適当であった 12：その他の時期がよい
希望する開催時期

- ・学期期間中
- ・計画的に実施してほしい
- ・後期が始まる直前にた FD が立て続けにあるのは不適切
- ・後期が始まる直前は少々きついです。また 2 日連続の研修もきついです。仕方がないでしょうか。できれば3月中旬が良いです。
- ・授業がある期間がよい。
- ・通常講義の期間のほうが多くの先生が参加できるのでは？
- ・FD 研修会が、同時期に3回開催されたことをかいぜんして欲しい
- ・定期試験を除いた授業日

項目5：今後のFD研修会取り上げてほしいテーマ、ご希望、ご意見などありましたら、ご記入ください（自由記述）

- ・定型表現のポケットサイズのハンドブックがあれば位と思います。
- ・じゃんけんぽんは、ロックペーパーシザーズシートでは？
- ・ビデオで授業が示されたが、あそこで見なかったのは英語でやる英語の授業ではなく英語でやる専門の授業である。英語でやる英語の授業は普通だと思う。
- ・今せっぱつまった状況でこのようにかみくだいた、教員寄りのFDをやって頂いて赤瀬先生に感謝しています。広島高校のDVDはすばらしかったですね。（実践に授業を受けている感覚でした）赤瀬先生、ご準備など大変なことをして頂き、ありがとうございました！
- ・英語の勉強会
- ・すぐに使える内容で良かったです。
- ・今回、実際に英語のトレーニングが出来て有難かった。このようなトレーニングが出来る機会がもっと欲しい。
- ・今日の時間帯のほうがよいです。（16:15スタートだと17:00まで終わらない）
- ・I had a good time today. Thank you for your effort.
- ・この1ヵ月でFD研修会が集中しており、明日もある。もう少し計画的に実施してもらいたい。1回1時間ほどにしてもらいたい。
- ・FDが短期間に多過ぎる。

4-4 令和元年度 第4回FD研修会 実施報告

1. 研修会概要

日 時：令和2年1月22日(水) 15:00～16:00
 場 所：第1会議室（管理棟2階）
 講 師：スクールソーシャルワーカー 島田 和政氏
 （社会福祉士・長野市いじめ問題調査委員）
 題 目：いじめ予防と学生のためのソーシャルワーク
 対象者：長野高専教職員
 出席者：63名（M7, E6, S9, J6, C6, G21, J8）

2. 講演内容

2-1 土居校長から

- ・1月～3月は年間でも特に多く複数の高専で悲しい事柄の報告がある。その芽はどこにでも。学生への接し方をこの講座で勉強して再考してほしい。

2-2 島田先生による研修

- ① 自己紹介
- ② スクールソーシャルワーカーの仕事
- ③ いじめの防止と予防
- ④ ビデオによる事例紹介
- ⑤ スクールソーシャルワーカーの活用

2-3 濱口相談室長から

- ・今回の資料はお渡しできません。いじめに関するアンケート調査を考えおります。

2-4 質疑応答

- ・質問は時間もなく1件もなかった。

3. アンケート集計結果

今回は、アンケート調査は実施しなかった。

5. 令和2年度の活動に向けた各種委員会等への提言

令和元年度 各種委員会の活動状況の点検結果、学生との意見交換会、外部評価、卒業生・修了生および企業に対するアンケート調査からの改善内容等の意見をもとに、各種委員会等への提言を以下に示す。

1. 教務委員会への提言

- ① 学生の主体的な学習への取組みと意欲の向上が課題に挙がっているが、学習時間の増進、対話型授業やアクティブ・ラーニングの導入等に関する検討は不十分である。夏季自主研修の課題提供として専門科目の重要性を具体的に認識できる低学年学生向けの問題解決型学習の導入例、企業見学会やインターンシップがあげられているが限定的である。強化されたい。
- ② 本科と専攻科の連携を強化した教育体制の構築について、方針、内容が不明確である。とくに教務委員会では専攻科との連携が議題で取り上げられており、必要があるとの認識が確認できるが、専攻科運営委員会で本科との連携が課題となっておらず、連携を強化した教育体制の構築には双方の協力が必要であると考えられるため、よりいっそうの努力を期待したい。
- ③ 科目間連携が低学年の成績不振学生への対応に限った話になっている。教員間の連携と協働教育に踏み込んだ話になっていないため、高度化連携も踏まえて教員のグループ化について検討を進めるべきである。また Blackboard の利用促進や MCC への対応は活動方針にあがっていたが検討が行われていない。これに関する議論を強化していただきたい。

2. 学生支援委員会への提言

- ① 課外活動指導に関する業務負担軽減に取り組み、来年度から課外活動日直（業務委託）を導入するが、その効果を確認すると共に、課外活動指導員（非常勤職員）の活用に関して検討する。
- ② 学生生活の安心と安全が守られるよう、教務委員会ははじめ他の委員会とも連携し、教員および職員が一枚岩となった学生指導・学生支援を行う。

3. 寮務委員会への提言

- ① 1年生への寮規則遵守指導法を考える。
- ② ゴミの分別も含めて共用スペースの整理整頓について、寮生会役員と協働して考える。

4. 専攻科運営委員会への提言

- ① 学習教育目標に対する学生の達成度や専攻科の教育に対する満足度を調査し、教育改善に役立つ施策が望まれる。

5. 研究支援委員会

- ① 研究活動について、学会の紹介、共同研究など業績を増やすための支援を図る。
- ② 科学研究費助成金等外部資金獲得のため、採択率が高い外部資金情報の紹介などの支援を行う。

6. 広報委員会

< 広報企画部門 >

- ① サイエンス・ツアーの申込書やアンケートを、記入ならびに集計のしやすい方式に切り替えるあるいは併用することができるか、またそれによって作業効率の改善が期待できるかを検討する。
- ② サイエンス・ツアーも含めた科学イベントへの参画の状況について、教員間で大きく差があり、参画教員の確保も困難となっている。参画教員のモチベーション維持のためにも、教員校務における位置づけを明確にし、人事評価・職務待遇面におけるインセンティブを検討してはどうか。
- ③ グッズやノベルティの感想・意見などの調査方法について検討し、次に作成するグッズへのフィードバックをかける。

<刊行物部門>

- ①学園だよりの発行回数削減は、予算が問題ということならば一部をオンライン配信のみにする方法もあるのではないか。たとえば情報発信部門で作成・配布している中学生向けチラシへ学園だよりの QR コードを載せたり、保護者へは成績通知書に QR コードを載せたプリントを同封したりするなど、予算を抑えて周知する方法もあろう。予算だけでなく、PR 効果、作成者の負担なども含めて発行回数について検討頂きたい。
- ②すでに広報イベントで配布したグッズやノベルティを手にした生徒が本校に入学してきている。たとえば定規などは印刷された方眼が便利であることや作りの丈夫さを理由に多くの学生が未だ活用している。グッズやノベルティの感想・意見などを調査し、次に作成するグッズへのフィードバックをかけてはどうか。

<情報公開部門>

- ①動画の掲載も youtube から可能であるため、今後、動画による広報も検討してもよいかもしれない。
- ②トップページからの誘導がないため、新規に掲載したインタビュー記事(たとえば研究者ピックアップ)や、こまめに更新を続けている校内活動の記事(たとえば図書館)がまったく目に付かない。「見る人」と「見てもらいたい人」の両方の立場に立って、トップページからどのように誘導すべきなのかを検討・再構築して頂きたい。
- ③「一番伝えたいこと」を伝えるにもっとも効果的である大型トップバナーが活かされていない。イベントへの募集、工嶺祭、大きなニュース、新規コーナーへの誘導など(前述のアントレプレナーシップや長野高専基金などにも使えるはずである)、活用法は多岐にわたる。積極的な活用を検討頂きたい。

7. 国際交流センター

- ①従来の国際交流活動を継続し、より充実したものにしていく。

8. 教育改善委員会

- ①卒業生・企業向けアンケート調査結果の分析・評価
- ②学習・教育目標の達成度に関する調査の活用

6. 高等専門学校機関別認証評価における訪問調査結果に基づく 各委員会等への提言

平成30年度高等専門学校機関別認証評価の学校関係者（責任者）への訪問調査結果の説明および意見聴取の報告を受け、今後本校が対応すべき点として各委員会等へ提言する。

1. 優れた点として指摘された点を示す。他高専にない取組みとして 今後も継続して実施するよう提言する。

教務委員会（教務主事）

学校全体としてエンジニアリングデザイン対応科目である PBL 型授業において、新たな課題に取り組みさせるなど創造力を育む取組みを行っており、その成果は多数の学会発表や各種コンテストでの受賞につながっている。

4年生の90%以上が履修している実務訓練において、学生及び受入れ企業等に事前に目標とする実践力の内容を説明するなど、実務訓練に反映されるよう工夫し、実践力を育む教育を実施している。

専攻科運営委員会（専攻科長）

専攻科1年次の実践工学演習及び学外実習は、実践力を養成することを目指して4か月に渡り企業等で実務に従事させる科目であり、学生が提出する学外実習月報と報告書、指導教員が依頼企業等を訪問して提出する学外実習調査書、企業が評価した学外実習評定書等により実践力の涵養を確認している。

専攻科課程の就職について、就職率は極めて高く、就職先も製造業、情報通信業、学術研究専門技術サービス業、公務員関係等、当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても進学率は極めて高く進学先も専攻の分野に関連した大学の講座の研究科となっている。

学生支援委員会（学生主事）

准学士課程の就職において、就職率は極めて高く就職先も製造業や電気ガス熱供給水道業、情報通信業、学術研究専門技術サービス業、公務員関係等の当校が育成する技術者像にふさわしいものとなっている。進学についても進学率は極めて高く、進学先も学科の分野に関連した高等専門学校の専攻科や大学の工学系学部となっている。

寮務委員会（寮務主事）

学生寮では、特に日常の学習習慣を涵養するための低学年勉強会、学習時間コアタイムの定着を目的としたコアタイム巡視等の取組みや成績向上者を表彰する努力賞の制度を設け、学習寮として成果を上げている。

2. 改善を要する点指摘された点を示す。各委員会等で検討頂きますよう提言をする。

執行会議（総務主事）

毎年中期目標中期計画に基づく年度計画の実績報告を中心とした、自己点検評価を実施しているものの、学校教育法第109条第1項に規定される学校の総合的な状況についての定期的な自己点検評価を実施するための基準、項目等の設定は不十分である。

准学士課程及び専攻科課程のカリキュラムポリシーに関して、学習成果をどのように評価するかについてはシラバスに評価項目が記されているものの、カリキュラムポリシー自体にはその基となる方針が明確に記されていない。

准学士課程及び専攻科課程のアドミッションポリシーには、求める学生像は明記されているものの、その様な学生を実際に受入れるための入学者選抜の基本方針が明確に記されていない。

研究成果、研究活動に関する学校としての目的及び基本方針が、規程等において明確に定められていない。

地域貢献活動等に関する学校としての目的及び基本方針が、規程等において明確に定められていない。

教務委員会（教務主事）および専攻科運営委員会（専攻科長）

准学士課程及び専攻科課程においてディプロマ・ポリシー及びカリキュラムポリシーに対する学生認知状況は極めて低く、周知の取組みについて改善が必要である。

一部の授業科目において複数年にわたり同一の試験問題が出題されている。また、複数の科目で学習成果の評価に不適切な点が見られる。

教務委員会（教務主事）

准学士課程において入学者選抜の基本方針に沿った学生の受入れが、実際に行われているかを検証する取組みは十分とは言えず、検証結果が入学者選抜の改善につながっているとはいいがたい。

専攻科運営委員会（専攻科長）

専攻科課程において入学者選抜の基本方針に沿った学生の受入れが、実際に行われているかを検証する取組が行われていない。